



令和8年1月22日
ななかいこども園

にじいろだより

NO. 13

新年を迎え、3週間がたとうとしています。お正月明け「あけましておめでとう！」と自分から挨拶をする姿が見られました。家庭の生活の中に、しっかりと伝統が根付いているのかなと感じます。クラスでもたこあげ、カルタ取りなどで楽しみました。お正月遊びの中には、文字や数、形などに触れる遊びも多く、遊びの中から、自然に身につけていくことができます。おうちでも取り入れてみましょう。先日、小学校の先生達と話しをする機会がありました。その中で、小学校で気になっている部分を教えて頂きましたので、ご紹介します。

【小学校の先生が伝えてくれたこと】

友達同士の関わり方、折り合いの付け方

けんかになってもうまく伝えることができない。伝え間違ってしまうなどのことが、小学校に行っても多いそうです。友達との関わりの中で伝えたいことを引き出しながうまく言葉で表現できるように、支えていきたいですね。

読む力が弱い

文字に興味を持たない子が増えてきているため、読み聞かせや、本のある生活を推奨しているそうです。書くことも大切ですが、まずは文字に親しみが持てるような楽しい時間があるといいですね。

私たちが今できること・・・

その時その年齢で、いろいろ乗り越えていくことが必要ですが、どんな社会にも適応し、軸を持って生き抜いていくために必要な力は、以前お伝えさせて頂いた非認知能力です。新聞に載っていた記事を参考にお伝えさせて頂きます。

私たち、こども園時代に必要なことは非認知能力を育てていくこと。では、その非認知能力を育てるためにはどうすればいいのか。それは、生まれつきの気質に加え、育つ環境の中で、長い時間をかけて培われていきます。

土台となるのは、**乳幼児期に親子関係が育む愛着**です。親からの無条件の愛は、ありのままの自分に価値があるという自己肯定感をもたらします。他者を信頼し、安心して様々なことに挑戦し、自立することにつながっています。家庭では、必ず朝ご飯を食べ、毎日決まった時間に起床、就寝をするといった基本的週間の確立や、子どもの自主性を大切にすることも大切です。さらに、家に本などの様々な物を置いて子どもの好奇心を育てること。ちょっとした不快さや不便さにも耐えることができるように、快適な生活をしすぎないことも重要です。まずは自分のお子さんの発達具合をよく観察して見極め、子どもにヒントを与えて成長を促す「足場かけ」をしてあげることが大切です。

広島大学助教授 浜野隆先生談